

浜中町役場新庁舎建設基本設計書（概要版） 平成 29 年 10 月



| | |
|-------------------|---------------|
| 1 設計の基本方針 | ・ ・ ・ ・ ・ 1 |
| 2 計画概要 | ・ ・ ・ ・ ・ 2 |
| 3 造成計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 3 |
| 4 給水・排水計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 4 |
| 5 配置計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 5 |
| 6 平面計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 6～7 |
| 7 立面計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 8 |
| 8 断面計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 9 |
| 9 内装・ユニバーサルデザイン計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 10 |
| 10 電気設備計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 11 |
| 11 機械設備計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 11 |
| 12 工事工程計画 | ・ ・ ・ ・ ・ 12 |
| 13 概算工事費 | ・ ・ ・ ・ ・ 13 |

1 設計の基本方針

「浜中町役場新庁舎建設基本計画」に示された4つの基本理念と整備方針に基づき、浜中町の次世代へ引き継いでいくことのできる資産として相応しい庁舎の実現を目指します。

1) 防災機能が充実した庁舎

- ・災害時に行政機能を維持できる庁舎
- ・防災機能を集約した庁舎
- ・災害時の一時避難場所として活用できる庁舎

2) 効率的な行政サービスが可能な庁舎

- ・窓口のワンストップ化など、効率的なサービスを提供できる庁舎
- ・快適な窓口環境が整った庁舎
- ・相談サービスの環境が整った庁舎
- ・ユニバーサルデザイン化された庁舎

3) 省エネルギーや環境に配慮した庁舎

- ・省エネルギー、自然エネルギー等を活用した環境配慮型庁舎
- ・豊かな自然環境に調和した庁舎

4) 財政事情を考慮した庁舎

- ・コンパクトな庁舎
- ・施設の維持管理費等、ランニングコストを抑制できる庁舎
- ・有利な地方債や補助制度等を最大限活用した庁舎



南側外観イメージ

2 計画概要

1. 計画地

- ・位置 北海道厚岸郡浜中町湯沸 445 番地外
- ・面積 新庁舎敷地 : 18,400 m²
防災広場敷地 : 16,200 m²
- ・用途地域 指定のない区域
- ・防火地域 指定なし

2. 庁舎の建築概要

- ・建物名称 浜中町役場庁舎
- ・建物用途 庁舎
- ・建物規模 地上3階
- ・建物構造 鉄筋コンクリート造 免震構造
- ・建築面積 1,454 m²
- ・床面積

| | |
|----|----------------------|
| 3階 | 1,368 m ² |
| 2階 | 1,358 m ² |
| 1階 | 1,454 m ² |
| 計 | 4,180 m ² |



建設予定地



霧多布市街地上空からのイメージ

3 造成計画

1) 津波被害を受けない新庁舎敷地の造成

- ・平成24年6月に北海道より示された津波浸水予測での津波最大遡上高13.9mを大きく超えた海拔42mの高さへ新庁舎敷地を造成し、大規模地震により津波が発生した際にも浸水被害を受けない計画とします。
- ・新庁舎建設位置は、全てが切土造成となる計画とし、新庁舎をより安定した地盤に建設します。

2) 高台への速やかな避難を可能とする避難道路の新設

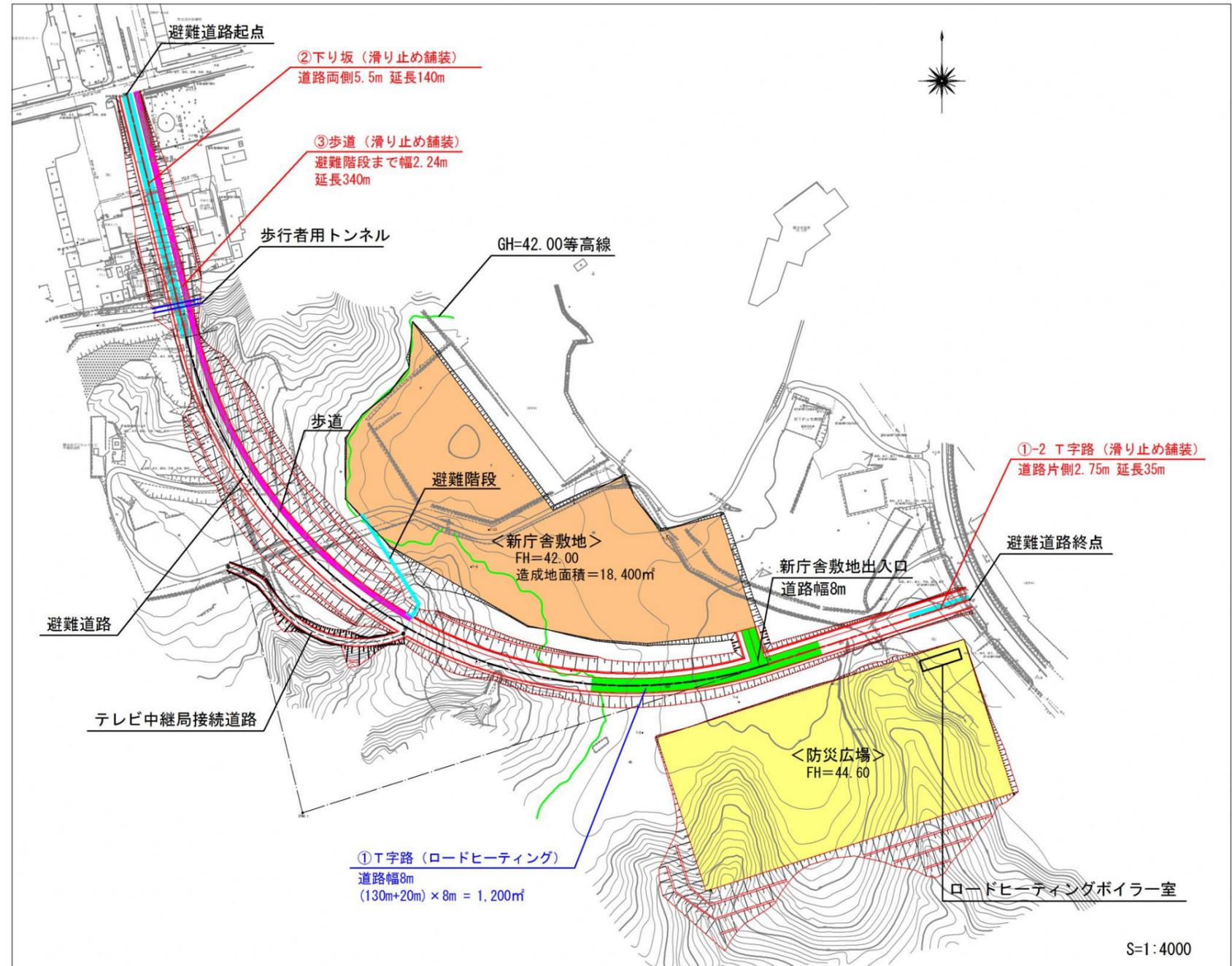
- ・現庁舎正面の霧多布中央通り（火防線）から湯沸地区高台へと抜ける避難道路を建設します。高台への避難道路が現状の2本から3本へと増設されることで、霧多布地区住民がより速やかに避難できるようになります。
- ・避難道路は、霧多布市街地から新庁舎へのアクセス道路として、町民の利便性向上も図られます。
- ・避難道路は、約7%勾配となりますが、冬季にも安全に車両が走行できるよう、滑り止め舗装や必要箇所にはロードヒーティングを設置します。
- ・新庁舎敷地への出入口は、災害時にも車両がスムーズに出入りできるよう、広い形状とします。
- ・避難道路の片側（新庁舎敷地側）に歩道を設置します。更に歩道の中間地点から新庁舎敷地へと繋がる避難階段を整備し、徒歩での避難環境の向上を図ります。
- ・水取場地区側の住民が道路横断せずに、速やかに歩道へ移動できるよう、歩行者用トンネルを設置します。

3) 造成による残土を活用した防災広場の整備

- ・新庁舎敷地及び避難道路造成により発生する残土を活用し、新庁舎敷地周辺の谷を埋め立て、防災広場を整備します。
- ・防災広場は、災害時にヘリコプター離発着場や消防隊及び警察の緊急車両の待機場所とするなど、多目的に活用します。

4) テレビ中継局接続道路の新設

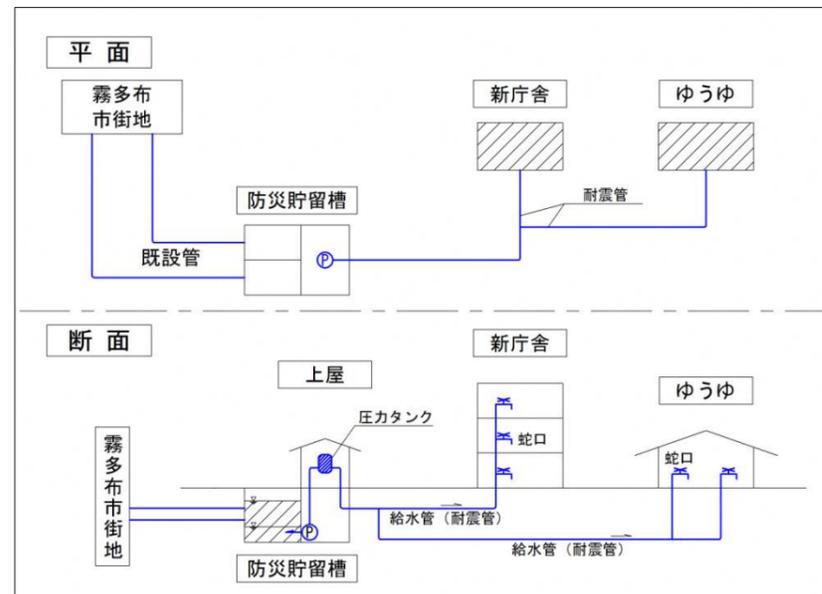
- ・避難道路の建設に伴い、テレビ中継局送信所のメンテナンスに必要な既存の接続道路がなくなることから、造成費が少なく道路勾配も抑えられる位置にテレビ中継局接続道路を新設します。



4 給水・排水計画

1) 給水計画概要

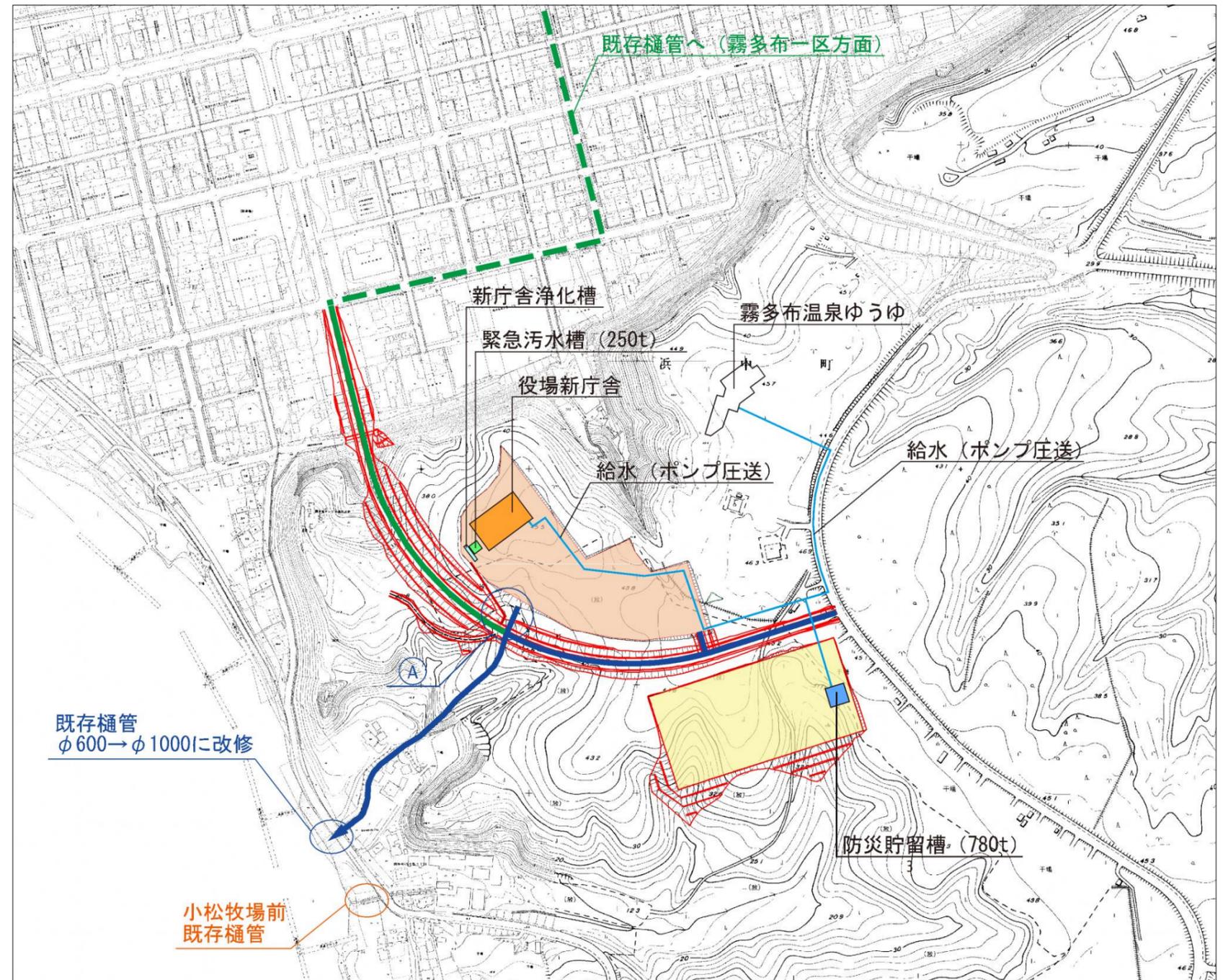
- ・ 防災広場の一角に防災貯留槽を建設し、災害時の一時避難場所となる新庁舎及び霧多布温泉「ゆうゆ」へ平常時より給水する計画とします。
- ・ 防災貯留槽は、災害等で断水となった状況においても、霧多布・湯沸地区の避難人口と非常配備職員を合わせた 1,130 人分の 7 日分の飲用水・生活用水を確保できる規模（780 トン）とし、停電状況の中でも非常発電設備で給水ポンプを稼働させることにより、給水を継続できる計画とします。



給水計画図

2) 排水計画概要

- ・ 右図の A 地点よりも上部区域にある道路、新庁舎敷地、防災広場からの雨水や新庁舎浄化槽により処理された排水は、小松牧場前既存樋管の手前に設置されている樋管から排水する計画とします。既存の管径（600φ）では排水能力が不足するため、1000φに改修し、支障のない排水計画とします。
- ・ A 地点よりも下部区域の道路排水は、霧多布市街地を經由し、既存樋管（霧多布一区）から排水する計画とします。
- ・ 災害時に排水本管が使用できなくなった状況においても、トイレ等の使用ができるよう、相当期間の排水を貯留できる緊急汚水槽（250 トン）を敷地内に設置します。緊急汚水槽は、手動で浄化槽との切り替えが可能な計画とします。



給水・排水計画図

5 配置計画

1) 安定した切土地盤への新庁舎配置

- ・新庁舎は、切土造成の地盤上で、敷地先端から適切に離すことで安定した配置とします。

2) 敷地からの眺望を活かせる新庁舎配置

- ・霧多布市街地、浜中湾、琵琶瀬湾を見渡すことができる敷地北側に新庁舎を配置します。霧多布市街地や両湾の状況を確認できるため、災害時の対策において効果的です。
- ・新庁舎は、眺望条件の良い北側・西側・南側に開かれた建物とし、「ゆうゆ」側へは大きな開口を設けない計画とします。

3) 駐車場スペースを広く確保する配置計画

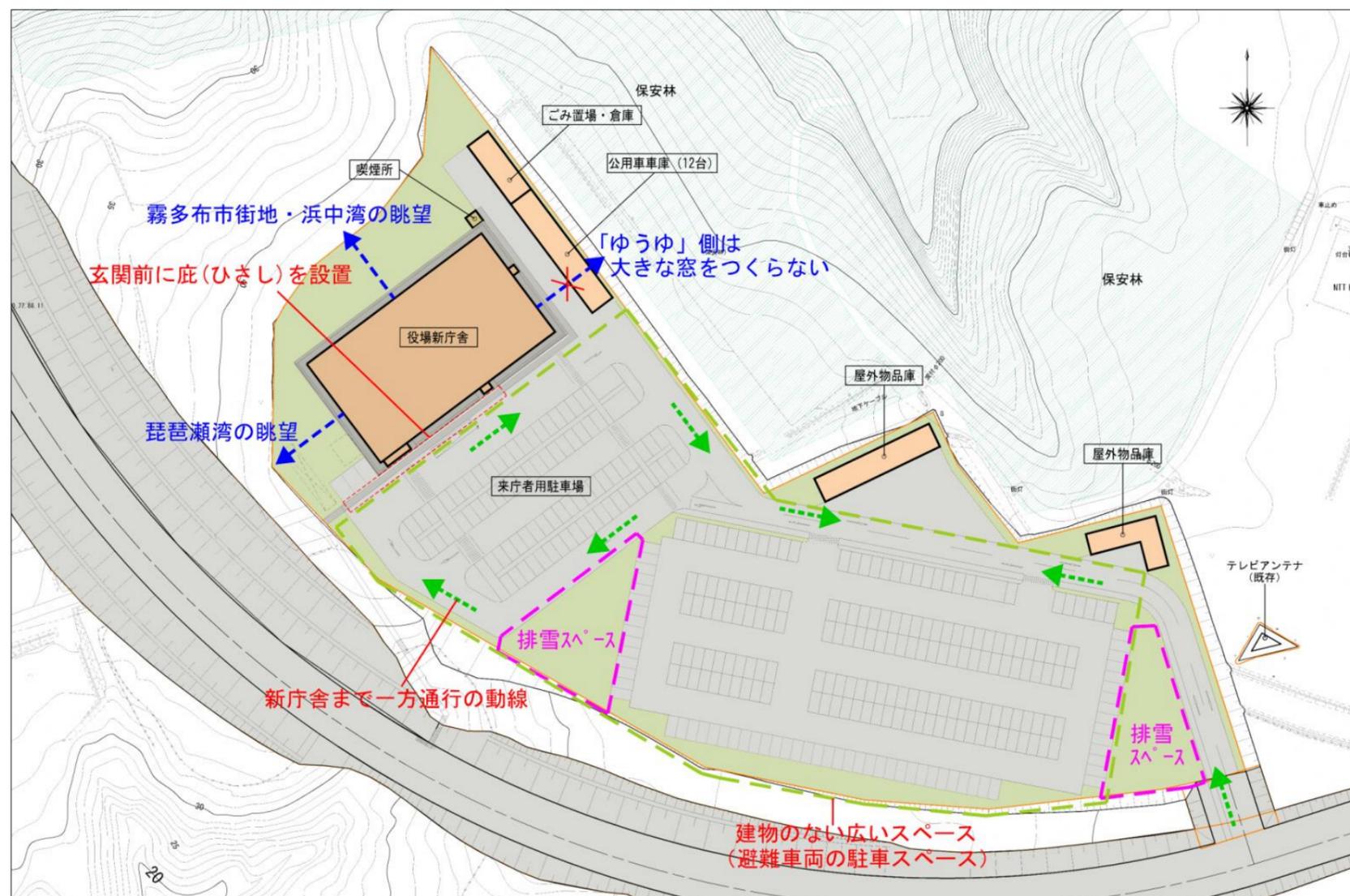
- ・新庁舎敷地は、災害時に多くの避難車両の駐車スペースとなることから、最大限に確保するため、新庁舎はコンパクトな整形として敷地北側に、公用車庫や屋外物品庫などの付属建屋は敷地の境界付近に配置することで、敷地中央部には建物のない広いスペースを確保します。
- ・駐車場の外灯を極力駐車スペースの内部に設置しないよう、配慮するとともに、冬季の維持管理に必要な排雪スペースについても適切な位置に配置します。

4) 来庁者が利用しやすい配置・動線計画

- ・敷地内の車両動線は、新庁舎前まで一方通行とすることで、来庁者をスムーズに誘導します。
- ・新庁舎前に来庁者用駐車場を配置し、それ以外のスペースは、普段は多目的に活用します。
- ・新庁舎南面に正面玄関と集会室玄関、東面に職員玄関を設け、来庁者と職員の動線を明確に分離します。
- ・正面玄関と集会室玄関前には庇（ひさし）を設置することで、バスの停留所や雨天時の降車スペースとして、来庁者が雨に濡れずに新庁舎にアクセスできるよう、利便性を高めます。

5) 駐車場・駐輪場・倉庫計画

- ・来庁者用駐車場：80台
- ・車いす利用者用：3台（正面玄関横）
- ・来庁者用駐輪場・バイク置場
- ・公用車用駐車場：外置き…32台、車庫置き…12台
- ・屋外物品庫（災害対応用品等収納）
- ・ごみ置場・倉庫
- ・喫煙所



配置計画図

6 平面計画

1) コンパクトな平面計画

- ・シンプルな長方形（28m×51.2m）の平面計画とし、コンパクトで無駄のない経済設計とします。

2) 来庁者にわかりやすいフロア構成

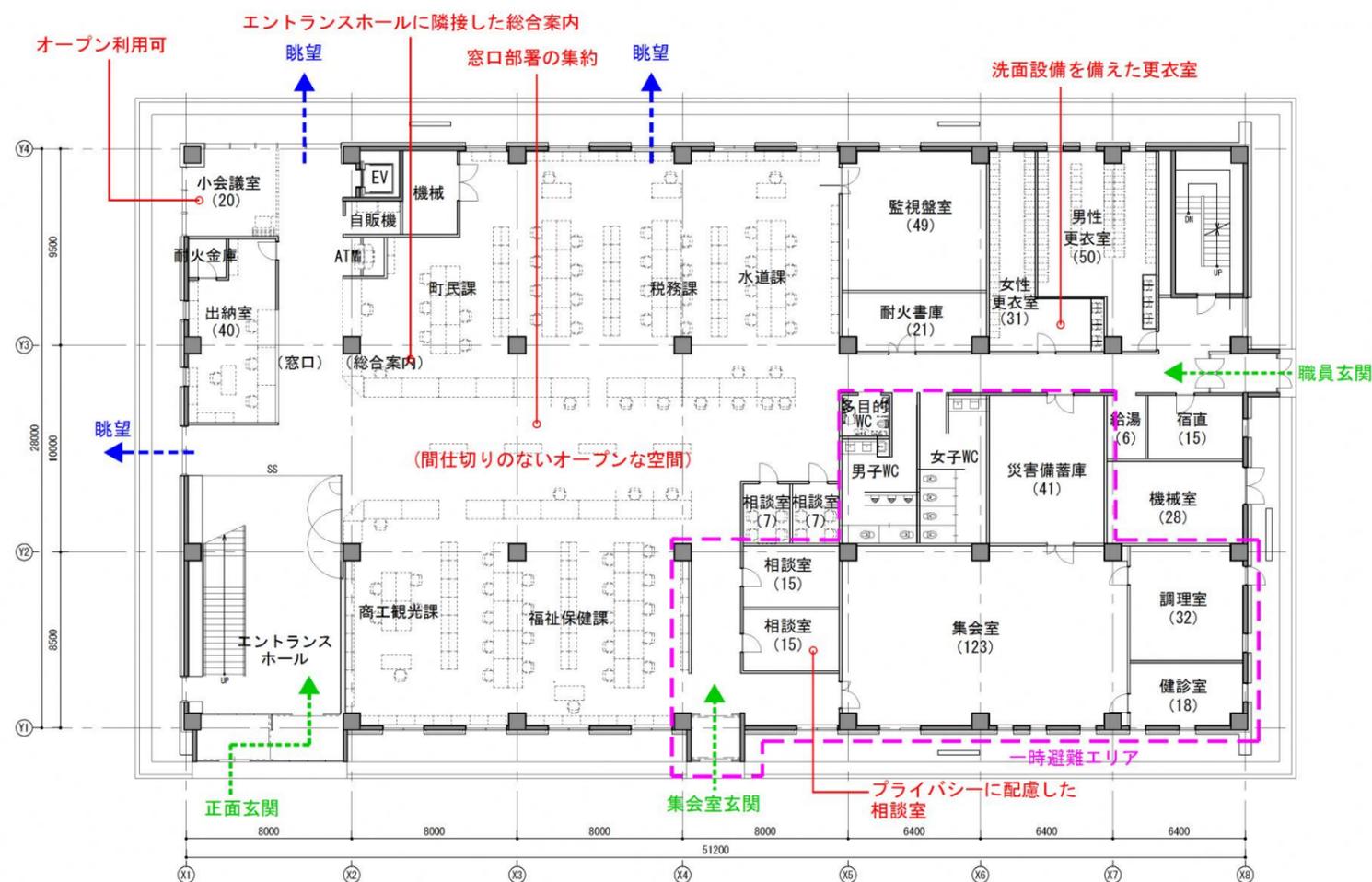
- ・1階は来庁者利用の多い窓口機能、2階は主な執務機能、3階は議会機能及び会議室を配置し、階ごとの構成がわかりやすい平面計画とします。
- ・エントランスホールには1階から3階までを繋ぐ直線階段を設置し、来庁者が各階へ行きやすい計画とします。
- ・1階、2階の執務エリア中央部は、間仕切りのないオープンな空間とし、来庁者が一目で見渡せ、利用部署がわかりやすい計画とします。

3) 組織変更にも柔軟に対応できる執務空間

- ・執務スペースについても、間仕切りを設けないオープンタイプのオフィス空間とし、将来の組織変更などにも柔軟に対応できる計画とします。

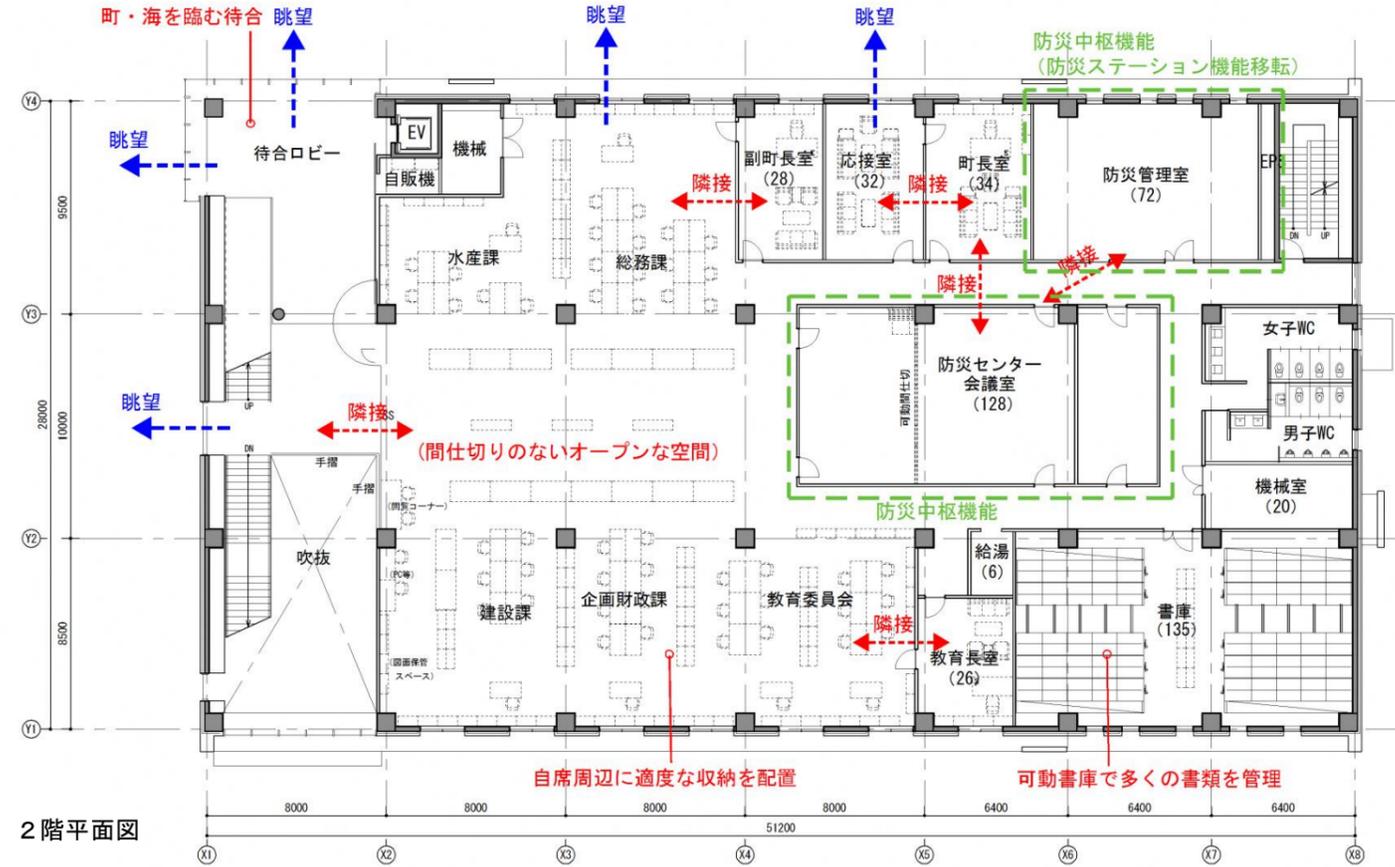
【1階】

- ・来庁者利用の多い窓口部署を1階に集約します。来庁者がアクセスしやすいよう、エントランスホールに隣接配置し、窓口を一目で見渡せるオープンな空間とします。
- ・来庁者が迷わずに庁舎内の目的の場所まで行けるよう、ホールから一番近い場所に総合案内を設けます。
- ・来庁者が安心して相談ができるよう、プライバシー保護に配慮した相談室を4室配置します。
- ・出納室は、エントランスホール正面に配置し、指定金融機関のATMも隣接配置することで、来庁者の利便性に配慮します。
- ・各種保健事業を実施する集会室は、窓口業務に影響を与えないよう、集会室専用出入口設置により区分します。



【2階】

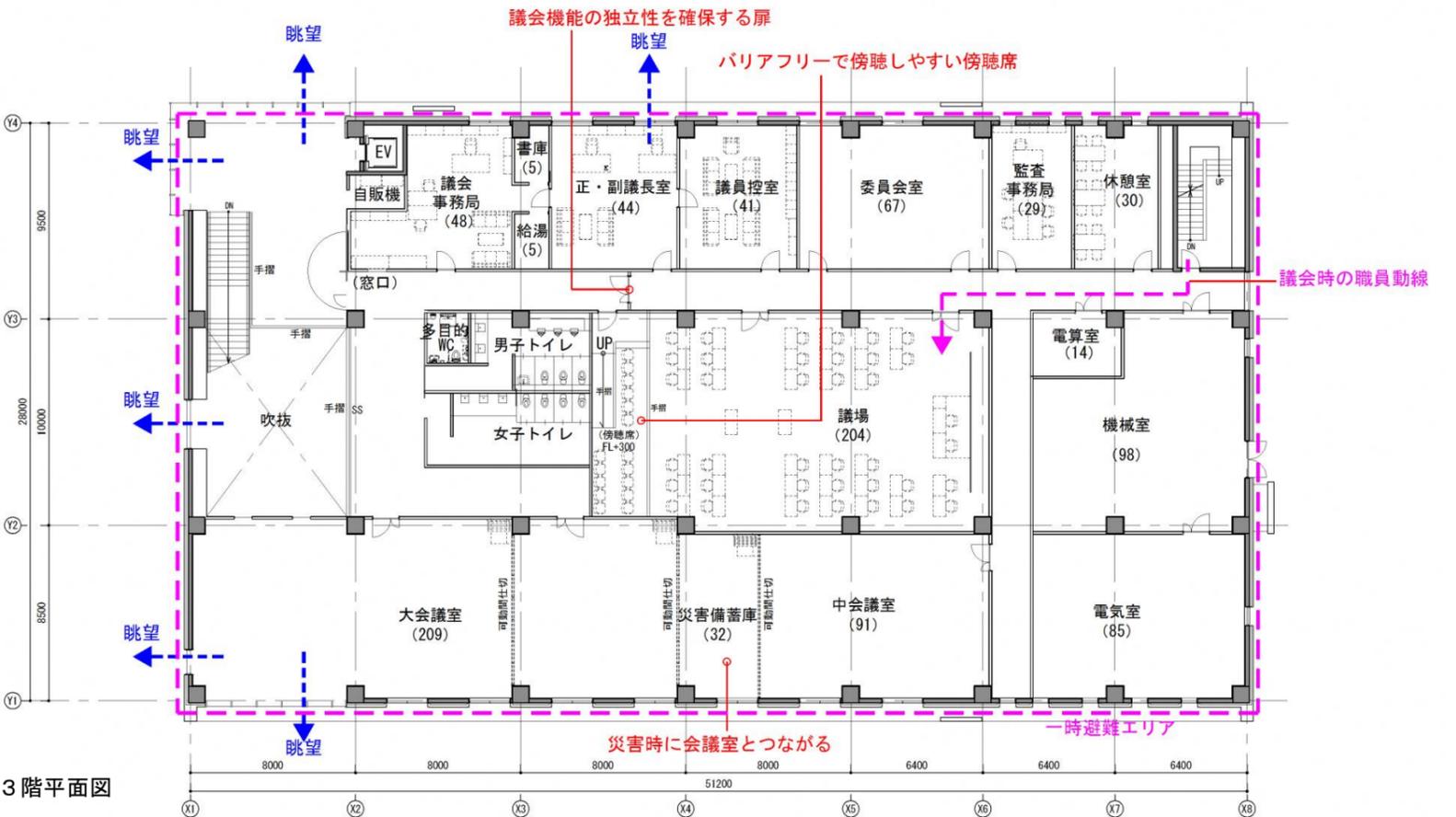
- ・1階の窓口部署以外の執務フロアと位置付け、災害時においても、一時避難場所を設けず、災害対策拠点として機能する計画とします。
- ・町長室・副町長室と総務課、水産課、防災対策室などの防災対応の重要部署と防災機器を集約した防災管理室は、霧多布市街地や港湾を確認できる北面へ配置します。
- ・防災センター会議室は、フロア中央に配置することで、防災対策関係職員が速やかに集まることのできる計画とします。
- ・通常業務において理事者とのスムーズな業務連携が図られるよう、町長室・副町長室に隣接して総務課を、教育長室に隣接して教育委員会を配置します。
- ・新庁舎内の書庫を2階に集約することで、保存文書等の収納効率を高めます。



2階平面図

【3階】

- ・議場をフロア中央に配置し、議会関連諸室を北面に集約することで、議会エリアの連携及び独立性を確保する計画とします。
- ・議場の床には、段差を設けず、スロープを設置した傍聴席と併せて、バリアフリーな議会環境を構築します。
- ・南面には大・中2つの会議室を配置します。災害時には一時避難場所となることから、2つの会議室を一体的に使用できるよう、中間に配置する災害備蓄庫は、可動間仕切仕様とします。
- ・南面の会議室エリアと北面の議会エリアの間にトイレを配置し、利用しやすさに配慮します。

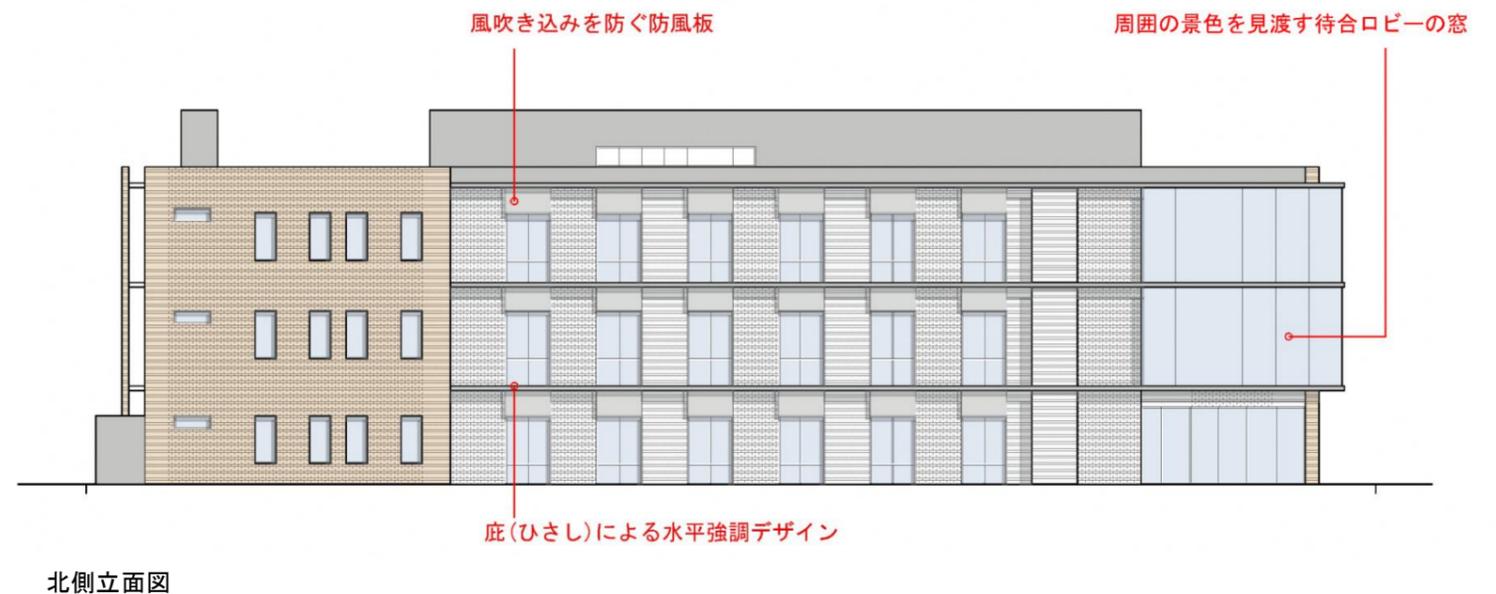
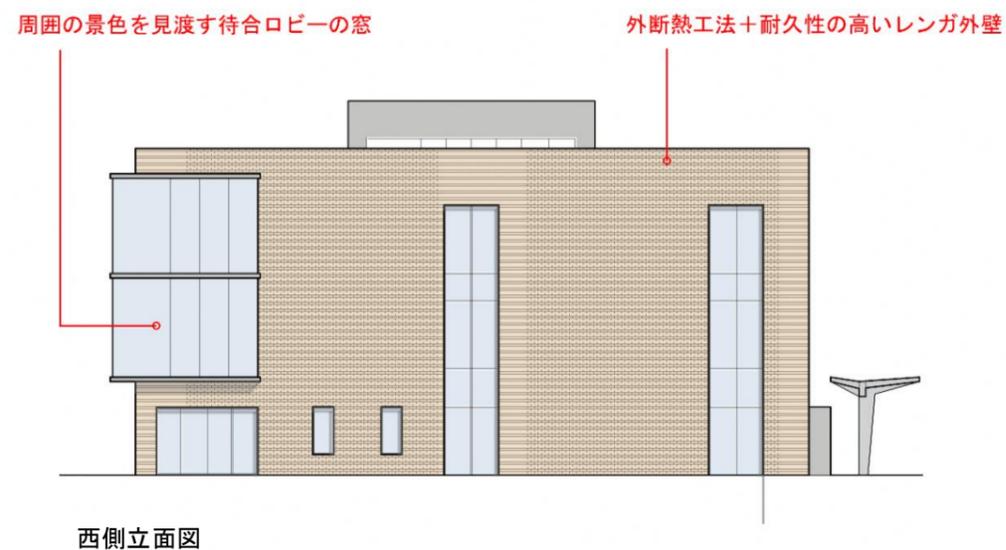


3階平面図

7 立面計画

1) 厳しい自然環境の中で長く建ち続けられる庁舎

- ・断熱材で躯体を包み、更なる外側を「レンガ」で覆う「外断熱工法」を採用します。大きな開口は待合ロビー部分に限定することで、寒冷な気候の中でも空調負荷を抑え、強い風雪や潮風から躯体を守ります。
- ・外壁材には、基本的に張替補修が不要で耐久性の高い材質「レンガ」を採用するとともに、塩害を受けやすい金属仕上げ部分を極力少なくすることで、将来の改修費用を抑えます。



2) 湯沸高台の景観に馴染む落ち着いた外壁と水平強調デザイン

- ・温かい印象を与え、経年変化とともに味わいを深める「レンガ」の中から、立ち込める霧を連想させる白色系のレンガとやわらかい印象の土色系のレンガを組み合わせることで、湯沸高台の景観に違和感なく馴染む新庁舎デザインを目指します。
- ・庇(ひさし)を利用した水平強調デザインにより、湯沸山に建つ新庁舎の圧迫感を抑えます。

8 断面計画

1) わかりやすい階構成と機能を繋ぐエントランスロビー

- ・ 1階は来庁者利用の多い窓口機能、2階は主な執務機能、3階は議会機能及び会議室を配置し、階ごとの機能構成がわかりやすい断面計画とします。
- ・ エントランスロビーは一部に1～3階までの吹き抜け空間を採用し、視界で各階を繋ぐとともに、直線形状の階段を来庁者動線の中心とします。

2) 南北両側からの自然採光・自然通風

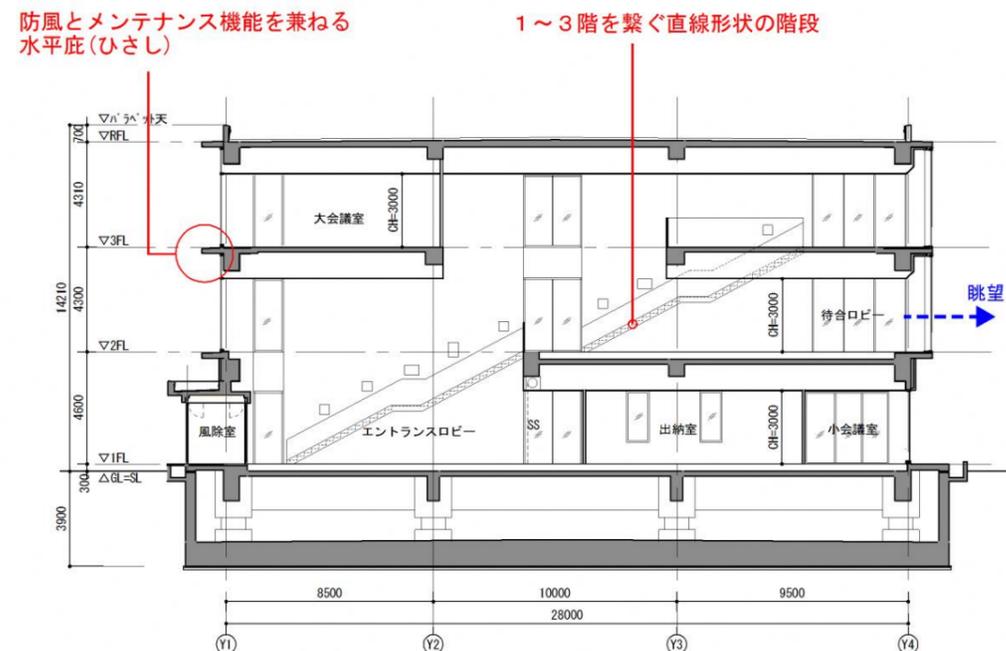
- ・ 新庁舎の南面及び北面は執務エリア、中央部分は来庁者の動線エリアと位置付け、両エリアに自然の光が差し込む明るい執務空間とします。
- ・ エントランスロビーの吹き抜け部分は、煙突の役割を果たす「ドラフト効果（煙突効果）」を利用した自然換気・通風を可能とします。

3) 耐震性能の高い庁舎

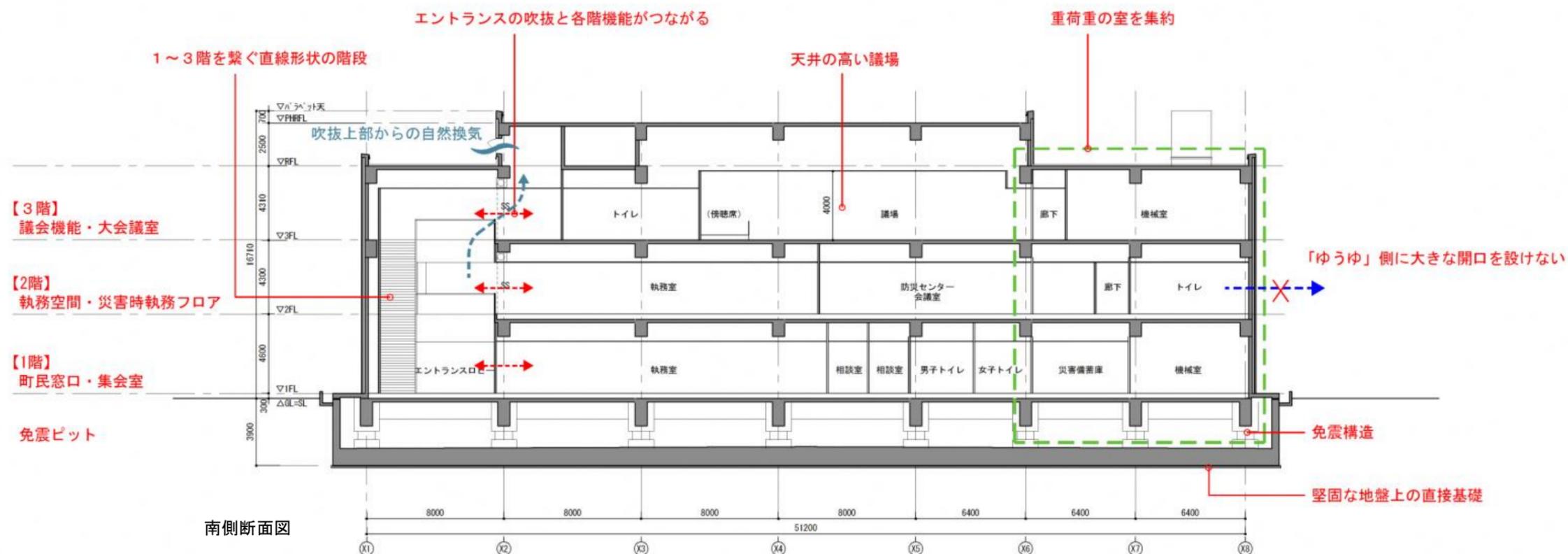
- ・ 新庁舎敷地は、地盤が堅固であることから直接基礎方式とし、地震による揺れの吸収、躯体損傷への低減に効果のある免震構造と組み合わせることで耐震性能の高い庁舎とします。

4) 強風を防ぎ、メンテナンスに活用できる水平庇（ひさし）

- ・ 周囲から吹き付ける強風の壁面吹き上がりを抑えるとともに、空調吸排気口の防風フードを兼ねる水平庇（ひさし）を壁面に設置し、窓清掃などのメンテナンスにも活用します。



エントランスロビー断面図



南側断面図

9 内装・ユニバーサルデザイン計画

1) 安らぎとぬくもりを感じる庁舎

- ・ エントランスロビーには外壁から連続したレンガと、地場産木材を内装の一部に使用することで、温かみのある空間を創出し、来庁者を優しく迎え入れます。

2) 機能性を重視したシンプルな内装仕上げ

- ・ 長期間使用するため、内装は飽きのこないシンプルな仕上げとし、機能性と清潔さを維持できる清掃しやすい材質を採用します。
- ・ 執務エリアの床は、床下空調吹き出しと配線スペースを兼用した OA フロアとします。

3) 来庁者が安全に移動できる庁舎

- ・ 車いすやベビーカーを利用する来庁者が余裕を持って通行できる入口幅や通路幅を確保するとともに、安全に使用できるエレベーターを整備します。
- ・ 3階は災害時に一時避難場所となることを考慮し、多くの方が安全に移動できるよう、直線階段は緩やかで幅広な仕様とします。
- ・ 車いす利用者や高齢者、子ども連れの方など、多様な状況に対応できる多目的トイレを一時避難場所である1階・3階に設置します。

4) 来庁者に見やすくわかりやすいサイン

- ・ 階ごとの表示は色分けなどにより、誰もが見やすくわかりやすいサイン表示とします。
- ・ エントランスロビーの周辺に施設案内表示や総合案内を配置し、案内機能を高めます。



内観イメージ（1階エントランスロビー）

<主要仕上表>

| 室名 | 床 | 壁 | 天井 | 備考 |
|--------------|---------------------------|------------------|--------------------|---------------------|
| エントランスホール | 磁器質タイル貼 | 石膏ボード+EP-Si | 岩綿吸音板 木調アルミルーバー | |
| 執務室 | 床下吹出用 OA フロア +タイルカーペット | 石膏ボード+EP-Si | 岩綿吸音板 | |
| 町長室・副町長室 | タイルカーペット | ビニルクロス 木練付パネル | 岩綿吸音板 | |
| 議場 | タイルカーペット | 木練付パネル (不燃) | 木ルーバー (不燃) | 議場システム 排煙窓 (天井裏) |
| 正・副議長室 | タイルカーペット | ビニルクロス 木練付パネル | 岩綿吸音板 | |
| 集会室 | タイルカーペット | 石膏ボード+EP-Si | 岩綿吸音板 | |
| 防災センター会議室 | OA フロア +タイルカーペット | 石膏ボード+EP-Si | 岩綿吸音板 | プロジェクター 可動間仕切壁 |
| 大会議室 中会議室 | ビニルタイル | 石膏ボード+EP-Si | 岩綿吸音板 | 可動間仕切壁 |

1) 災害拠点としての機能確保

- ・設備については、「官庁施設の総合耐震診断基準」において、大地震後でも大きな補修をすることなく、必要な機能を継続できるとされる「甲類」に該当した仕様とするとともに、重要機器については耐震措置を施します。
- ・災害対策拠点としての機能を発揮できるよう、現在の防災行政無線、津波防災ステーション、北海道防災情報システム、全国瞬時警報システム「Jアラート」など、各種の防災機器を新庁舎の「防災管理室」へ移転集約します。
- ・停電状況の中でも機能を維持するため、必要エリアへの電気供給を72時間（3日）以上継続できるよう、高圧の非常用発電設備と燃料タンクを設置します。
- ・非常用発電設備については、発電機を使用する際に生じる騒音や振動を考慮し、防災広場の一角に配置します。

【非常用発電設備の電源供給施設】

- ・ 役場新庁舎（一般照明・一部コンセント・冷暖房・空調機器・エレベーター）
- ・ 防災貯留槽（新庁舎・「ゆうゆう」への給水ポンプ）
- ・ 庁舎駐車場外灯（避難車両の駐車スペース）
- ・ 避難道路外灯（歩道及び避難階段）

2) 省エネルギー機器の積極的な採用

- ・新庁舎内の照明機器は、全てLED照明を採用し、トップランナー変圧器の使用と併せて消費電力を抑制します。
- ・照明点灯区分を細分化することにより照明電力を抑制します。
- ・トイレ等は、人感センサー、執務エリアなどの窓側にある部屋については昼光センサーを採用し、照明電力を抑制します。
- ・グリーン購入法を満たす環境負荷の少ない製品を積極的に採用します。
- ・新庁舎駐車場や避難道路の外灯などにも、積極的にLED照明を採用します。

1) 空調設備

- ・メインとなる空調方式は、来庁者や職員の環境に快適性が高い、床下暖房方式を採用します。床下から温風を放出することで、床暖房のような安定性に加え立ち上がりの早さを確保します。
- ・夏場は、天井から冷風が自然に下りる方式に切り替え、部屋全体を冷房します。
- ・使用頻度の少ない部屋及び小さな部屋は、個別制御の空調方式とします。
- ・優れた環境性及び省エネ性を実現する自然エネルギー「地中熱」を全館の冷暖房の熱源とするシステムを計画します。
- ・地中熱利用システムの導入は、今後実施する採熱試験調査での熱量データを活用したうえで、検討を進めます。

2) 給水設備

- ・災害時の断水等を考慮して平常時より防災貯留槽から給水する計画とします。
- ・防災貯留槽には、非常用発電設備で稼働する給水ポンプを設置し、災害時にも給水可能な状態にするとともに水道管は耐震型高性能ポリエチレン管とすることにより、地震の被害を抑制します。
- ・防災貯留槽に蓄える水は常に更新する必要があるため、霧多布市街地と防災貯留槽を結ぶ水道管を避難道路に沿って敷設し、常時循環させる計画とします。

3) 排水方式

- ・新庁舎からの汚水・雑排水は、合併処理浄化槽で処理した後、避難階段を經由して避難道路等の排水と併せて水取場地区の樋管から放流します。
- ・排水ルートを支障で浄化槽からの放流が不能となった場合でも、相当期間の排水を貯留する緊急汚水槽を敷地内に設置します。経路切替弁にて汚水槽への放流を可能とします。

4) 衛生器具設備

- ・車いす利用者や高齢者、子ども連れの方など、様々な方が使いやすく、普段のメンテナンスが容易な器具選定を行います。
- ・環境に優しく、緊急時に水の使用量を抑えられる節水タイプの衛生器具を積極的に採用します。

13 概算工事費

| 工事項目 | 概算工事費 | 備考 |
|-------------------|---------------|-----------------------------------|
| 新庁舎建設工事 | 2,279,300,000 | 建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事ほか |
| 新庁舎敷地造成工事 | 286,300,000 | |
| 防災貯留槽建設工事 | 164,800,000 | 新庁舎及び「ゆうゆ」までの給水管、霧多布市街地との往還給水管を含む |
| 非常用発電設備工事 | 187,000,000 | 燃料地下タンクを含む |
| 倉庫類建設工事 | 150,000,000 | 新庁舎敷地3棟、防災広場の非常用発電設備建屋1棟 |
| 避難道路建設工事 | 761,600,000 | 歩道トンネル、避難階段、道路外灯、ロードヒーティングを含む |
| テレビ中継局送信所接続道路建設工事 | 16,600,000 | |
| 防災広場建設工事 | 341,600,000 | 新庁舎敷地造成工事、避難道路建設工事からの発生土を利用 |
| 合計 | 4,187,200,000 | |
| 消費税（8%） | 334,976,000 | |
| 総合計 | 4,522,176,000 | |

※ 現時点での概算であり、各種設計内容の変更や工事単価・労務賃金の変動により、今後において増減が生じる可能性があります。

※ 工事の財源については、「緊急防災・減災事業債」を活用することで、今後の財政負担の軽減に努めます。